

ル・モンド・ディプロマティーク日本語版の会から
池田こみちさんへの回答の中での世古一穂への指摘について

2018年9月25日

世古 一穂

1. まず、今回、池田さんが質問状を出されたことについて、私は、池田こみちさんを扇動した事実はありません。
2. 私（世古）がル・モンド・ディプロマティーク日本語版の会（以後、日本語版の会）に対して指摘したのは、「複数の関係当局は、18人の労働者が致命的な線量によって死亡したことを認めている」という記述についてです。
この部分は浅沼=ブリス・セシル氏の発言として引用されていますが、世古が各局ならびに脱原発運動をやっている方々へのヒヤリング及び資料でも18人という数字はできませんでした。
8月に日本語版のWeb版に掲載された翻訳記事の訳注で指摘のように「18人が福島第一原発事故による高線量で死亡し、それを関係当局が認めている」とすることに根拠・裏付けがないと判断されたのだと思います。であれば、この記事を書かれた筆者が自ら訂正記事を書き、4月号フランス語版でも訂正すべきだと考え、日本語版の会のメンバーにグーグルドキュメントのコメントを書き、日本語版の会から訂正を、筆者と仏語版に求めるよう主張しましたが、その主張は受け入れられませんでした。

世古は、記名記事であっても、こうした誤った数字をメディアに掲載することは、結果として脱原発運動の足を引っ張り、問題が大きいと見え、主張したものです。
3. また、世古は、日本語版の会に「個人的報復」をする考えは毛頭ありません。
民主的できちんとした議論をした上で筆者による訂正と仏語版4月号のフクシマの記事の中の誤った部分を削除、修正し、訂正文を出すべきと主張しているだけです。
4. 仏語版には、別途上記を、もとめていく所存です。そうしなければ各国のディプロに誤った記事が独り歩きしているわけですから。

以上です。

世古一穂